

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 富山市立神通碧小学校

種 別  保育園・幼稚園     小学校     小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校     中高一貫<sup>※注2</sup>     高等学校  
 教員養成大学     専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む    ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒939-2184

富山県富山市楡原405

E-mail jinzumidorisho@city.toyama.lg.jp

Website http://swa.toyama-city-ed.jp/weblog/index.php?id=toyama067

児童生徒数 男子42名    女子27名    合計69名

児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

## 3. 活動内容

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

本校では、学校教育目標「心身ともに健康で、意欲的に活動する子供の育成」のもと、目指す子供像を「み…みんな なかよし ど…ととのえよう 暮らしり…かかわり合い学ぶ子」として日々の教育に当たっている。そして、ESDの目標を、『学校の教育活動全体を通して、人格の発達や、自立心・判断力・責任感等の人間性を育むとともに、他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「かかわり」「つながり」を尊重できる児童を育成する。』として実践している。5年目を迎え、教科等の学習内容も含めた多面的な視点から、地域素材や人材の生かし方や関連のさせ方の検討を進めている。地域学習を核とし、発達の段階やこれまでの学びの経験を考慮して、段階的に視野の広がり生まれる単元を構想し展開することが、自ら対象に働きかけて学ぶ子供の育成につながると考え、以下の三つの分野を柱として実践を進めている。

① 生活科や総合的な学習の時間を中心としたESDに関わる学習

低・中学年のESD実践は、SDGsや教科との関連を意識し、子供たちがふるさとの事象に体験を通して繰り返し関われる新しい素材の教材化に取り組んだ。高学年においてはJR高山本線や「アートマイルプロジェクト」の導入など、地域外や海外へと関わりの対象を広げる教材を開発し、実践を進めた。「アートマイルプロジェクト」では、海外校との協働での壁画制作を通して、世界平和や貧困の問題など、グローバルな視野をもつきっかけとなるなど、これまでにはない広がりでの学習が展開された。また、校区外の駅周辺の景観・土地利用の違いや、パートナー国の文化の違い等、外部との「違い」に触れたことが、改めて自分たちが住む校区や自分たち



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(地域の魅力創生)		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<http://www.hokuriku-esd.org/> (北陸ESD推進コンソーシアム)  
<https://artmile.jimdo.com/> (ジャパンアートマイル)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESDの実践では、学年ごとに取り上げる分野や領域に配慮し、中学校との接続カリキュラムを作成した（資料1参照）。接続に当たって最大限に配慮したことは、9か年の育ちの中でふるさとに愛着をもち、進んでふるさとに関わることから、国際交流などの協働学習を通して世界的な視野から物事を見つめられる児童・生徒の育成を目指したことである。また、今日的なESDの視点をカリキュラムに加味するために、SDGsと各学年の内容との関連を一覧にまとめた実践計画表を作成（資料2参照）し、横断的な連携と発達の段階の両面を意識して実践に当たれるようにした。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年度当初に全教員でESDに関する研修をもち、ユネスコの理念やESDの実施と推進に関しての共通理解を図っている。その際には全員でカリキュラムの検討を行っている。さらに「富山ESD講座」「北陸ESDコンソーシアム」から外部講師を招聘し、カリキュラムや単元構想に関しての指導を受けてから学習をスタートしている。ESDの授業を全担任が公開授業を実施し、事前、事後の検討会を開催して、ESDの授業力向上に努めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

6月にESDをテーマとした公開校内研を開催し、参加者の意見等を反映させている。ただし今年度は、授業検討会をもてなかったため、次年度の公開研からは検討会も合わせて開催し、更に具体的な外部評価をもらい反映させていく予定である。また、学校評議員会にも成果を報告し、意見を頂いている。来年度は、子供に付けたい力や学習のゴールを明確に描き、実態に即した単元づくりや効果的に学習を展開できる方法に関しても研修の重点を置きたい。SDGsに関連しては、他教科等で育成を目指す資質・能力との関連を整理する必要がある。今年度作成した中学校との接続カリキュラムを土台として、教科等との横断的な連携、発達の段階との関連を更に整備していきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

6月にESDをテーマとした公開校内研を開催し、活動の経過を披露した。また、1月には「ESD富山シンポジウム」に6年生が参加し、「アートマイルプロジェクト」の成果を発表(資料3、4)した。子供自身が他校の取組や、他校の子供からの感想・意見をもらうことが、自己の取組を深く見つめる契機となり、学習の深化・統合が進んだことが、子供の学びの変容から分かった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

これまでの項目にも表れているように、「富山ESD講座」「北陸ESDコンソーシアム」からの協力や指導を仰いだ一方で、富山ユネスコ協会との連携事業に参加したり、ジャパンアートマイル事務局やJR西日本等の関係機関と連携し実践を進めたりすることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

1月に富山市体育文化センターで開催された「ESD富山シンポジウム」には県内12のユネスコスクールが参集し、各校の実践発表と意見交換が行われた。また、参加校全てがユネスコスクールではないが、6年生が参加した「アートマイルプロジェクト」では、プロジェクト参加校の活動の様子をインターネット掲示板から学び取ったり、推進教師が研修会に参加したりして、他校の取組に学びながら活動を進めることができた。

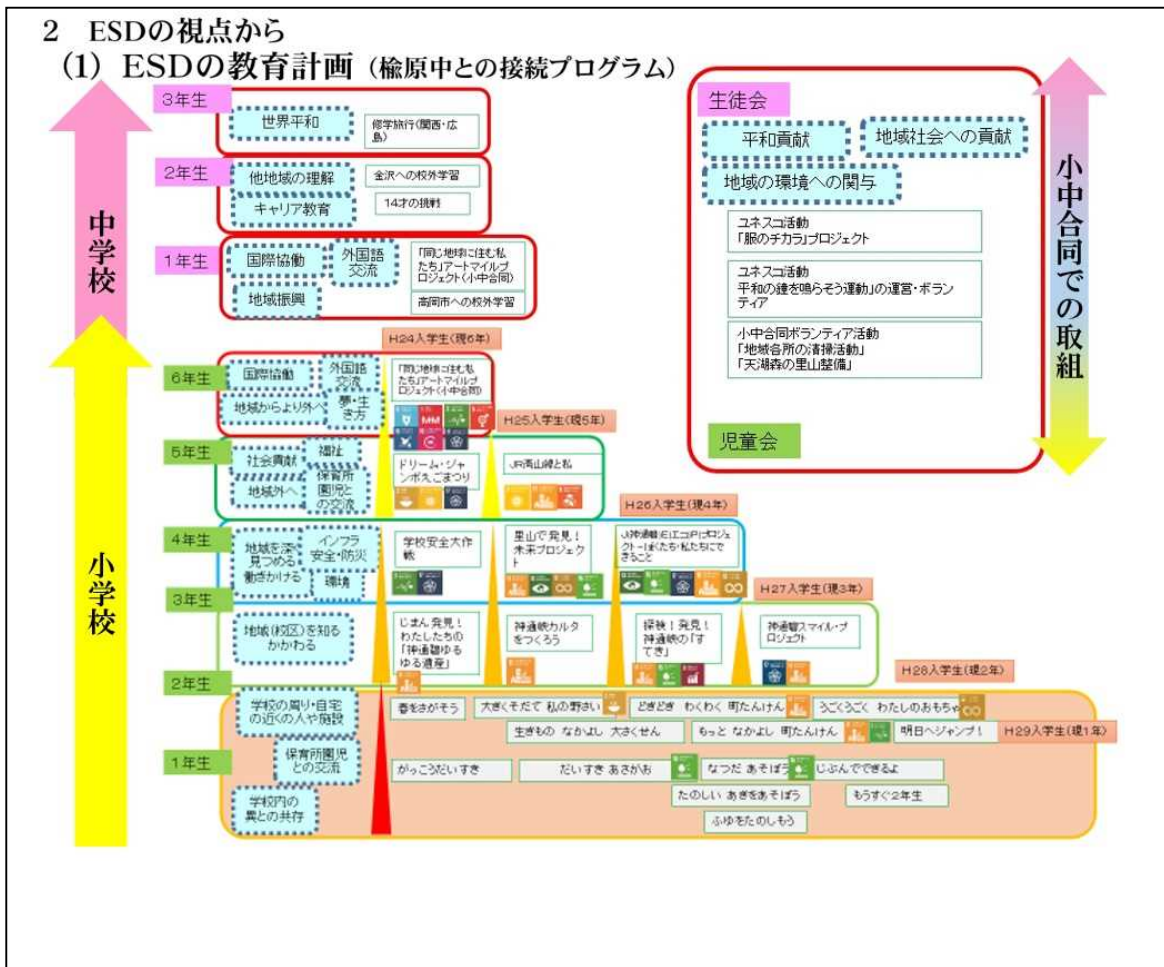
- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

中学校との9か年の接続カリキュラムを作成し、合同で研修を重ねるなかで、小中の9か年で児童・生徒に付けたい力や育てたい態度が明確になった点が特筆すべき点である。双方の教育内容や実践上留意すべきことへの共通理解が深まり、具体的な連携策が増えてきている。地域・保護者もこの動きを評価しており、今後一層連携を強め、地域・保護者を巻き込んで児童・生徒の望ましい成長が期待される教育課程を作りあげていきたい。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

来年度もESD公開校内研の開催を6月8日に予定している。内容に関しては、2学年の授業公開、事後検討会、外部講師の講演を計画している。教員だけではなく、学習参観日を兼ねることで、保護者や地域に向けての理解推進に役立てたい。授業実践については、教材の発掘と単元構想に重点を置いたこれまでの研修の視点から、これまで開発した単元を活用して、実態に即した単元づくりや効果的に学習を展開できる方法に関して研修の重点をシフトしていきたい。ESD富山シンポジウムには来年度も参加予定である。

資料1 ESDの教育計画(楡原中学校との接続プログラム)



資料2 SDGs実践計画表（第6学年のもの）

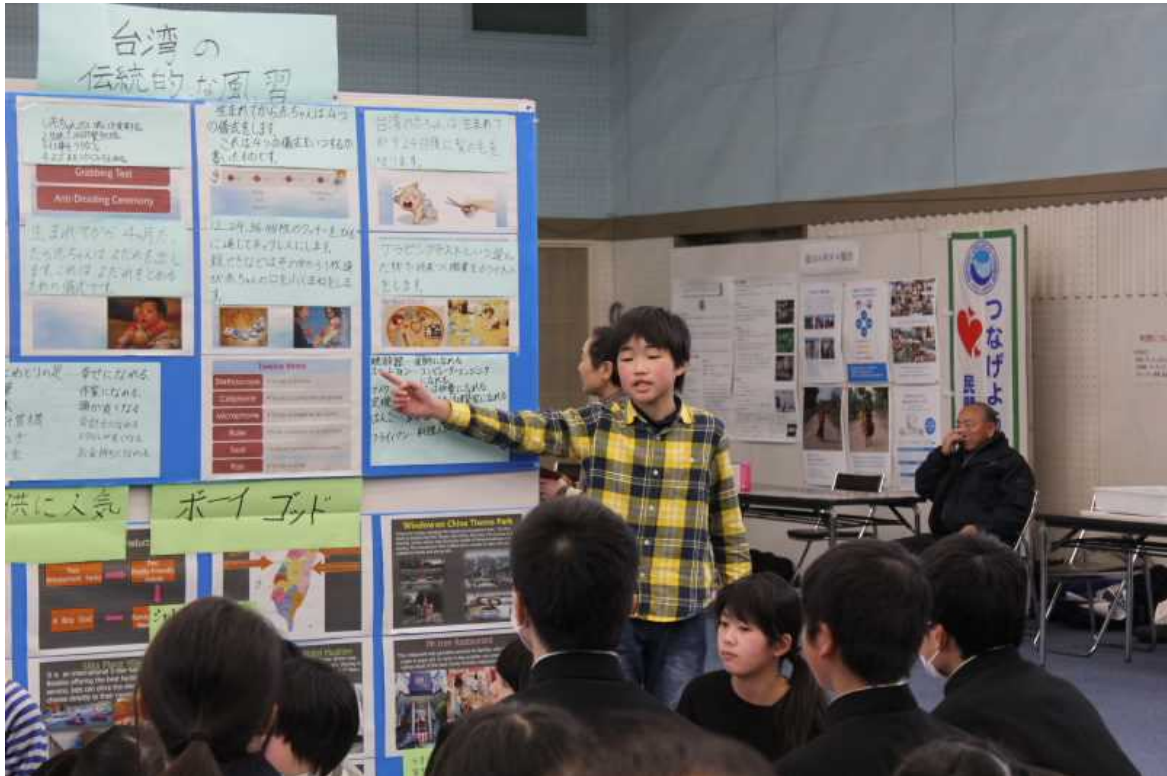
※東京都江東区立八名川小学校のものを参考に作成

環境		人権	多文化理解(国際理解)
<p><b>目標 2</b> 飢餓をゼロにする</p> <p>・世界の未来と日本の役割(社会科3月)</p>	<p><b>目標 6</b> 安全な上下水の保障</p>	<p><b>目標 1</b> 貧困をなくす</p> <p>・すあしにサンダルの天使(道徳11月)</p>	<p><b>目標 10</b> 人や国家間の平等</p> <p>・平和のかけ橋(道徳9月) ・平和のとりでを築く(国語9月) ・世界に歩み出した日本(社会科10月) ・日本とつながりの深い国々(社会科2月)</p>
<p><b>目標 7</b> エネルギーをみんなにグリーンに</p> <p>・物の燃え方と空気(理科4月) ・電気と私たちの暮らし(理科1月) ・世界の未来と日本の役割(社会科3月)</p>	<p><b>目標 9</b> 産業と技術革新の基盤づくり</p> <p>・世界の未来と日本の役割(社会科3月)</p>	<p><b>目標 3</b> 健康と福祉</p> <p>・子育て支援の願いを実現する政治(社会科12月) ・わたしたちのくらしと日本国憲法(社会科1月) ・病気の予防(体育5月・2月)</p>	
<p><b>目標 11</b> 安全で災害に強いまちづくり</p> <p>・町のよさを伝えるパンフレットを作る(国語7月) ・町おこしプラン(道徳7月)</p>	<p><b>目標 12</b> 持続可能な生産と消費</p> <p>・地球があふない(道徳5月) ・世界の未来と日本の役割(社会科3月)</p>	<p><b>目標 5</b> ジェンダー平等の実現</p> <p>・わたしたちのくらしと日本国憲法(社会科1月)</p>	<p><b>目標 17</b> 世界の協力とパートナーシップ</p> <p>・行ってみたい国を紹介しよう(外国語10月) ・フーバーさん(道徳11月) ・世界の未来と日本の役割(社会科3月) ・日本と世界の音楽に親しもう(音楽1月) ・地球ご生きる(理科3月)</p>
<p><b>目標 13</b> 気候変動対策</p> <p>・物の燃え方と空気(理科4月) ・地球があふない(道徳5月)</p>	<p><b>目標 15</b> 陸の豊かさ</p> <p>・詩を味わおう「せんねん まんねん」(国語7月) ・生き物のくらしと環境(理科6月) ・一番近い自然・里山(道徳10月)</p>	<p><b>目標 8</b> 経済成長と人間らしい仕事</p> <p>・世界の未来と日本の役割(社会科3月) ・地球ご生きる(理科3月)</p>	
<p><b>目標 14</b> 海の豊かさ</p> <p>・海の命(国語2月)</p>		<p><b>目標 16</b> 平和で公正な社会と行政</p> <p>・平和のとりでを築く(国語9月) ・長く続いた戦争と人々のくらし(社会科11月) ・新しい日本、平和な日本へ(社会科11月)</p>	

資料3 アートマイルプロジェクトで協働制作した壁画



資料4 ESD富山シンポジウムで学習の成果を発表する



資料5 アートマイルの取組が報道された例1

(北日本新聞 平成29年12月26日付朝刊より)

(第3種創作物品可) 北日本新聞

# 台湾と壁画制作で交流

制作中の壁画を前に笑顔を見せる児童生徒たち  
—富山市神通碧小学校

## ユネスコ事業

### 富山の榆原中「心は同じだね」

神通碧小

富山市榆原(細入)の神通碧小学校(立石浩一校長)の6年生15人と榆原中学校(佐伯行彦校長)の1年生4人が、台湾の中学校と合同で壁画制作に取り組んでいる。ユネスコスクール事業の一環で子どもは地球の宝物」をテーマに一枚の絵を完成させる。日本側は出来上がり、年末に台湾に送る。子どもたちは交流を通し「国が違っても心は同じと学んだ」と笑顔を見せる。

神通碧小と榆原中は、世界に平和の願いを込めた絵を描き合っており、国際理解や共生の心を育てるユネスコスクールに6月から取り組んでいる。縦1・5尺、横3・6尺のキャンバスに平和の願いを込めた絵を描き合っており、国際理解や共生の心を育てるユネスコスクールに6月から取り組んでいる。縦1・5尺、横3・6尺のキャンバスに平和の願いを込めた絵を描き合っており、国際理解や共生の心を育てるユネスコスクールに6月から取り組んでいる。

後、交流先の桃園市建國國民中学の生徒とテレビ電話で自己紹介したり、通話やおもちゃを贈り合ったりして仲を深めた。両国とも子どもを大切に育てる伝統や習わしが多くあると「気付き、それぞれの文化を象徴する絵を一つの壁画にまとめることにした。

神通碧小、榆原中の児童生徒は、十二単をまとったかぐや姫が赤ちゃんを抱きかかっている様子や成長を祝って「うっ食い初めや七五三、こどもの日などの催しを案ずるかなッチで表現。年末に台湾に送り、残り半分を制作してもいい。完成した壁画は2月末に日本に戻ると予定、再びテレビ電話で思いを語り合う。

神通碧小の寺下藍さんは「調べ学習を通して自分たちは大切に育てられてきたと感じられた。榆原中の機嫌輔さんは一国は違っても、子どもを大切にすることは同じ。今後交流を深めていきたい」と話した。



資料6 アートマイルの取組が報道された例2

(エコファミリー新聞 富山版 平成30年3月号より)

2018年3月12日号  
3  
富山版 Vol.20

エコファミリー新聞 富山版 Vol.20  
発行日: 2018年3月12日  
発行: 株式会社エコファミリー  
編集: 株式会社エコファミリー  
エコファミリー新聞編集部 富山編集室  
編集連絡TEL: 076-460-1001  
(平日9:00-18:00)  
Mail: toyama@ecofami.com  
HP: http://www.ecofami.com/

エコファミ すくすくスクール!  
エコファミを創っているみんなの活動を紹介します!  
今月は 富山県立 神通碧小学校

今月は富山県立神通碧小学校の6年生が檜原中学校の1年生と共同で行う「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」です。これは海外の学生と共に一つのテーマを学習し、学んだことをもとに一枚の絵を描くというものです。今年度参加した神通碧小と檜原中の皆さんは、インターネットのビデオ通話などを通して、台湾の中学生と交流を深めました。日本と台湾で半分ずつ描いた絵は、国連やユネスコの施設など、世界中で展示される予定です。

海外の子供たちと 共に一枚の絵を描く  
子供たちが最初に取り組んだのは、お互いの国を理解すること。文化を紹介したり、物を送り合ったりすることで、遠いや近いところを学びました。海外の文化を学び、他の国から見た日本を知ることで、今までになかった視点で日本について考えるようになったそうです。

活動が始まる前は、言葉の壁に不安を感じていた子供たち。簡単な英単語や身振り、表情で気持ちを伝えることができると、不安が薄れ、交流を楽しんでいたようです。また、絵を描き始めると、どうやら伝わらぬかを考えながら取り組んでいました。先生は「人とながる大切さや、壁々と相手と接することで新たなものが生まれることを学んでほしい」と話し、その通りの成長が、活動中

もくじ  
P.1 エコファミすくすくスクール 富山県立神通碧小学校  
P.2 みんなの環境リレーション海初音  
P.4-5 エコファミギャラリー ハバママパーク 古瀬なコーボン

資料7 アートマイルの取組が報道された例3

(北日本新聞 平成30年3月13日付朝刊より)

2018年(平成30年)3月13日 火  
台湾の中学校と共同制作した壁画。左が日本、右が台湾の制作

台湾の中学校と共同制作  
壁画完成 卒業式で展示  
檜原中と神通碧小

国際共生の心を育てるユネスコスクール事業の一環で、富山県立神通碧小学校と檜原中学校の生徒が台湾の中学校と取り組んできた壁画制作は、台湾側の制作が終わって完成し、今日日本に戻ってきた。16日にある小学校の卒業式で飾る。

ユネスコスクールに認定されている神通碧小と檜原中は昨年6月から、台湾の桃園市建國国民中学と交流を深めてきた。互いの文化について学ぶ過程で日台双方に子どもも大いに興味を示している。子どもたちも大いに興味を示している。子どもたちも大いに興味を示している。

富山 スコスクールの心を育てるユネスコスクール事業の一環で、富山県立神通碧小学校と檜原中学校の生徒が台湾の中学校と取り組んできた壁画制作は、台湾側の制作が終わって完成し、今日日本に戻ってきた。16日にある小学校の卒業式で飾る。

富山 スコスクールの心を育てるユネスコスクール事業の一環で、富山県立神通碧小学校と檜原中学校の生徒が台湾の中学校と取り組んできた壁画制作は、台湾側の制作が終わって完成し、今日日本に戻ってきた。16日にある小学校の卒業式で飾る。